

＜編集部に＞の訳

- W: こんにちは、マイアー君！
- M: こんにちは、ヴェルナー編集長。ああ、クリスマスソングだ！ 編集長、もうすっかりクリスマス気分ですね！
- W: もちろんよ。だって、クリスマス前の最後の週末でしょ。こういう時期には、読者のためにもクリスマスについて何か書かなきゃ。
- M: でもほく、まったくそんな気分じゃないんです。それにこういういったクリスマスソング、今の時期どの店でもどのデパートでも、いたるところで聞こえてきますけど、それもそんなにほくの好みじゃないんです…。
- W: でも何と言おうとクリスマスなのよ、今の時期は！ とにかくまずはインターネットで調べられるわよね。「クリスマス」とか「クリスマスの風習」とか、あるいは「エルツ山地」といったキーワードで調べれば、十分情報が手に入るはずよ。
- M: エルツ山地は、クリスマスと何か関係があるんですか？
- W: おおいにあるわ。あそこでは、クリスマス用の飾りがとても多く作られるの！ たくさん森と雪におおわれた山々に囲まれた地方だから。
- M: いいですね、じゃあすぐに出発します！
- W: また何か食べてるの？ 今度は何？
- M: これがプファアースス（香辛料、蜂蜜などを使ったクリスマス用の焼き菓子）で、こちにあるのが「シュトリーツェル」です。
- W: 「シュトリーツェル」？ いったいそれは何なの？
- M: ドレーズデンでのシュトレレン（ドライフルーツ、アーモンドなどを入れて焼き、砂糖をまぶしたクリスマス用の菓子パン）に対する呼び名です。ドレーズデンには「シュトリーツェル市」って呼ばれる大きなクリスマス市が立つんですが、そこでこれらのものを買ったんです。ついですが、インターネットでレシピを見ることもできますよ。URL は、www.weihnachtsbaeckerei.com。
- W: ちよつと見せてちょうだい…。そんなに難しそうじゃないわね。
- M: ええ、だからここにあるのもほくが自分で焼いたんです。しきたりどおりにね。スーパーで売られているクリスマス用の焼き菓子がおいしいことは、めったにないですから！
- W: クリスマス市についても、ちよつと話してみても！
- M: ドレーズデンのクリスマス市はとても大きいので、どちらかというところにはエル

ツ山地にあるザイフェンのクリスマス市に行きたかったんです。あそこはとても雰囲気がよくて、雪だつて積もってました。とてもすきなところでしたよ。そこにはモミの木が立てられ、本物のクリスマス用のオーナメントが漂っていますし、本当にたくさんさんのクリスマス用アクセサリーが売られたり、あちこちに並べられてたりもするんです。

＜雑誌記事＞の訳

ザクセンのクリスマス

クリスマスはキリスト教のお祭りで、イエス・キリストの降誕を祝うものです。しかしそれは、まさに一年で最も暗い時期に催されます。この時期には、キリスト生誕以前の時代、昼間が再び長くなる日の変わり目を祝っています。この時期に、暖かさや光、また何らかの緑を欲するというのは、よくわかります。華やかに飾られたモミの木、あるいは「クリスマスツリー」は、とりわけこのような憧れのひとつの表現なのです。もっともこのモミの木の伝統は、だいたい17世紀になってやってやると生まれたものです。ほぼ同じ時期に、「クリスマス＝イヴ」12月24日に、子どもたちのためのプレゼントを運んでくる「サンタクロース」や「クリスマスギント」といった伝統も生まれました。今日もお、待降節の時期にはそうするように、かつては緑の枝で、あるいはそれで作った輪で装飾が施されました。クリスマスの準備期間はだいたい4週間で、クリスマスの4週前の日曜日に待降節が始まります。待降節の時期は、日曜ごとにモミの枝で編んだ「アドヴェンツクランツ」の上のろうそくに1本ずつ火をつけ、クリスマス用の焼き菓子を食べ、コーヒーを飲み、クリスマスの歌を歌いながらその週を祝います。子どもたちは、12月1日に「アドヴェンツクランツ」をもらいます。そのカレンダーからは、プレゼントの日である12月24日まで毎日、たとえバショコレートなどの小さなプレゼントが出てくるのです。12月25日と26日は、ドイツでは祭日になっていて、たいがい家族で過ごしますが、そもそもクリスマスは、むしろ穏やかでゆっくりと思いを巡らす家族のお祝いなのです。それに対してゾルヴェスター（大晦日）は、花火を上げ、騒々しくにぎやかです。

(トーマス・マイアー)